

令和3年度全国学力・学習状況調査

本県の結果と今後の対策

【中学校】

令和3年12月17日

青森県教育庁学校教育課

* 本報告書の活用にあたって *

本報告書は、本調査の結果を受けて、本県の学習指導上の課題を明らかにし、県内の各学校が今後とるべき対策の参考となる事柄を示すことを主なねらいとして作成したものです。

本報告書の活用にあたっては、各教科・科目の結果だけでなく、質問紙調査の結果についても、自校の結果と比較しながら、今後の指導の改善に役立てていただきたいです。

なお、本調査の結果の概要や正答数の分布、全ての小問の正答率等については、文部科学省から配布された『令和〇年度全国学力・学習状況調査【小学校】又は【中学校】調査結果』（CD-ROM版）を参照してください。

また、国立教育政策研究所のホームページに、文部科学省の報告書や調査結果を踏まえた「授業アイデア例」が掲載されていますので、併せて活用してください。

* 本報告書の用語や記号等について *

本報告書中の用語や記号等については、次のような意味で使用しています。

「全国平均との差」

：「今年度の本県の平均正答率－今年度の全国の平均正答率」の式で求めた値。本県が全国を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示しています。

「前年度との差」

：「今年度の本県の平均正答率－令和元年度の本県の平均正答率」の式で求めた値。今年度が令和元年度を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示しています。

「過年度との差」

：隔年で質問されている項目へ対応するため、「今年度の本県の平均回答率－平成30年度の本県の平均回答率」の式で求めた値。今年度が平成30年度を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示しています。

※本県の平均正答率は「%」で、過年度との差については「ポイント」で表しています。

「□」：概況を示しています。

「▼」：課題を示しています。

「◆」：今後の方向性や対策・指導等を示しています。

「★」：肯定的な回答と教科の相関があることを示しています。

「数字」：本県の平均正答率が、対比している値に対して5ポイント以上上下回っていることを示しています。

令和3年度全国学力・学習状況調査 本県の結果と今後の対策【中学校】

目 次

I 全体概要	1
1 調査の概要	1
2 教科ごとの状況.....	1
3 質問紙調査結果から見える要因.....	2
II 国語	3
1 教科全体の結果	3
2 領域別の正答率	3
3 問題別集計結果	4
4 問題別集計結果の状況	5
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県児童の状況	7
6 学校質問紙調査の結果から見える国語の指導状況	9
7 指導改善のポイント	10
<令和元年度県学習状況調査を踏まえて(国語)>	12
III 数学	13
1 教科全体の結果	13
2 領域別の正答率	13
3 問題別集計結果	14
4 問題別集計結果の状況	15
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県生徒の状況	17
6 学校質問紙調査の結果から見える数学の指導状況	18
7 指導改善のポイント	19
<令和元年度県学習状況調査を踏まえて(数学)>	21
V 質問紙調査	22
1 生徒質問紙調査の結果と今後の対策	22
2 学校質問紙調査の結果と今後の対策	29

I 全体概要

I 調査の概要

(1) 調査実施日

令和3年5月27日(木)

(2) 調査内容(教科、質問紙調査)

① 教科

小学校 国語(45分) 算数(45分)

中学校 国語(50分) 数学(50分)

② 質問紙

児童生徒質問紙調査

学校質問紙調査

(3) 参加公立学校数

小学校参加校数 本県 257校(全国 18,965校)

中学校参加校数 本県 150校(全国 9,475校)

(4) 参加児童生徒数

小学校児童数 本県 8,757名【国語】(全国 993,975名)

8,759名【算数】(全国 994,101名)

中学校生徒数 本県 8,965名【国語】(全国 903,157名)

8,963名【数学】(全国 903,253名)

2 教科ごとの状況

本県の公立小・中学校の児童生徒の学力の状況は、全ての教科で、平均正答率が全国平均を上回るか同程度であり、概ね良好な状況にあります。

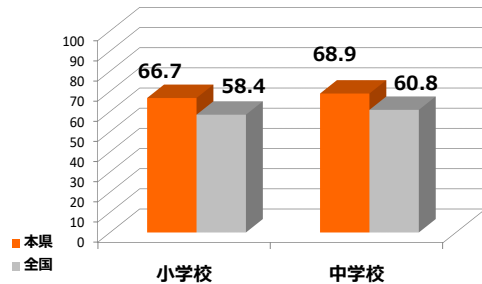
	令和3年度	
	平均正答率(%)	
	青森県(公立)	全国(公立)
小学校国語	69	64.7
小学校算数	71	70.2
中学校国語	66	64.6
中学校数学	56	57.2

3 質問紙調査結果から見える要因

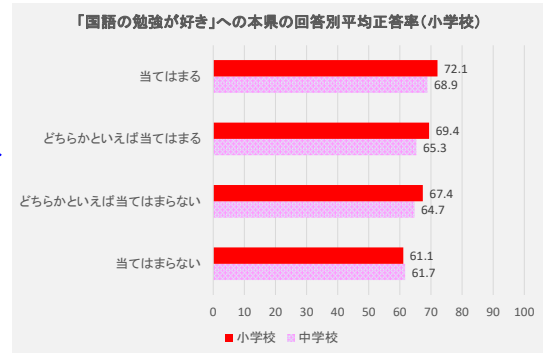
ここでは、本県の調査結果に係る要因の1つとして「各教科に対する興味・関心について」取り上げています。その他の要因については、各教科の頁を参照してください。

要因につながるデータ

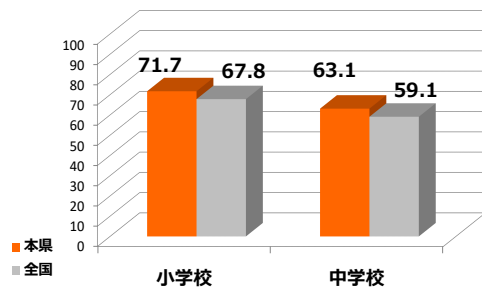
【国語の勉強は好きか】



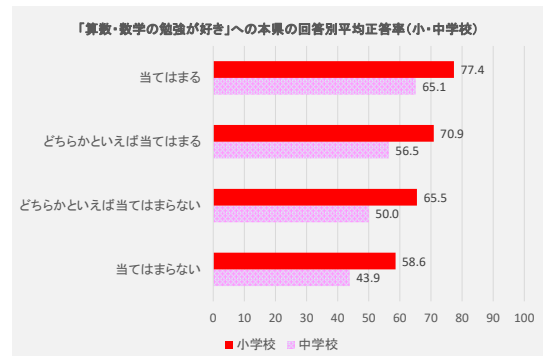
【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合 (%)】



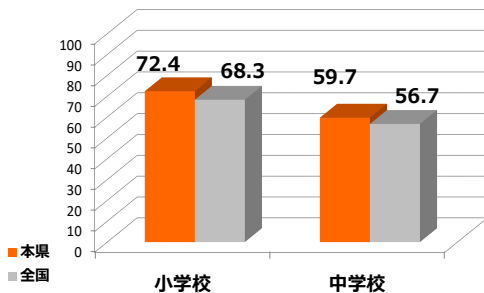
【算数・数学の勉強は好きか】



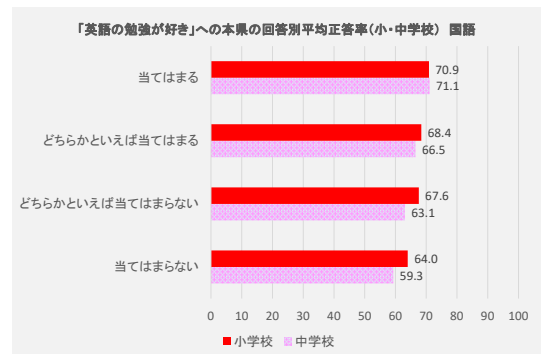
【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合 (%)】



【英語の勉強は好きか】



【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した生徒の割合 (%)】



- 本県の児童生徒は、各教科の学習に対する興味・関心が全国平均を上回っている。
- 各教科の学習に対する関心が高い児童生徒は、各教科における平均正答率も高い傾向にある。
- ◆今後も、児童生徒の各教科の学習に対する興味・関心を高める働きかけを工夫するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることが肝要である。

II 国語

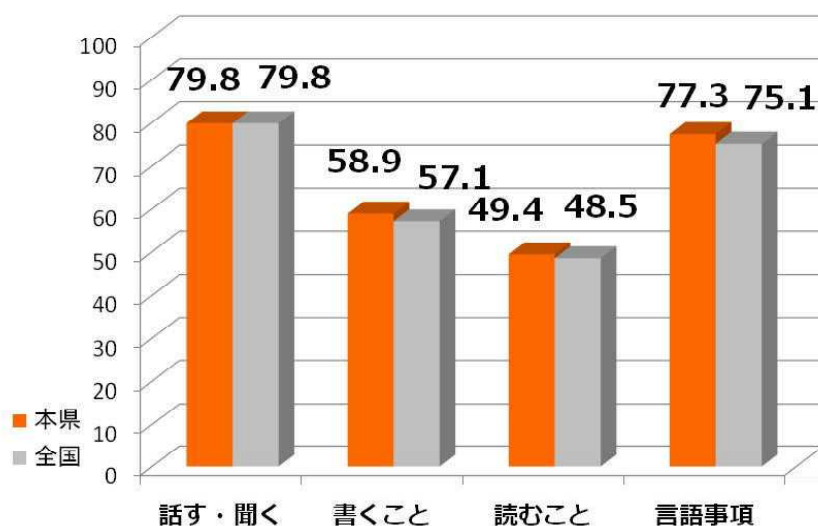
I 教科全体の結果

国語の平均正答率 (%)		
青森県	全国平均との差	令和元年度全国平均との差
66	+1.4	-6.0

□ 国語全体としては、本県は、全国平均と同程度である。

2 領域別の正答率

分類	区分	平均正答率 (%)		
		青森県	全国平均との差	令和元年度全国平均との差
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	79.8	0	-0.2
	書くこと	58.9	+1.8	+2.3
	読むこと	49.4	+0.9	-0.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.3	+2.2	+1.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	57.8	+1.8	+1.5
	話す・聞く能力	79.8	0	-0.2
	書く能力	58.9	+1.8	+2.3
	読む能力	49.4	+0.9	-0.6
	言語についての知識・理解・技能	77.3	+2.2	+1.8



□ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の領域について、平均正答率は全国平均と同程度である。また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域の平均正答率は、全国平均をやや上回っている。

3 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)				
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	青森県(公立)	全国(公立)	全国との差		
1一	話し合いでの司会の発言の役割について説明したものと適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える	1オ						○				○			90.7	89.7	1.0
1二	話し合いでの発言について説明したものと適切なものを選択する	質問の意図を捉える	1エ						○				○			91.6	92.5	-0.9
1三	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く	話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える	1オ					○	○					○		57.0	57.1	-0.1
2一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く	2エ							○			○			25.8	24.8	1.0
2二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える	2オ					○	○					○		75.9	74.5	1.4
3一	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する			1ア								○	○		43.7	43.7	0.0
3二	「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する	場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する			1ウ								○	○		57.9	58.7	-0.8
3三	「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する			2イ									○		72.6	71.0	1.6
3四	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ			1オ				○					○		23.3	20.5	2.8
4一①	漢字を読む(他ばして)	文脈に即して漢字を正しく読む			2(1)ウ(7)								○	○		97.9	97.5	0.4
4一②	漢字を読む(詳細)				2(1)ウ(7)									○	○		90.6	88.8
4二	「随時」の意味として適切なものを選択する	事象や行為などを表す多様な語句について理解する			1(1)イ(7)								○	○		74.6	74.0	0.6
4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	相手や場に応じて敬語を適切に使う			2(1)イ(7)								○	○		46.2	40.3	5.9
4四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く			2ウ				○	○				○		74.9	71.9	3.0

4 問題別集計結果の状況

○良好であること

○話すこと・聞くこと

- ・話合いの話題や方向を捉える【1一】(県正答率90.7、対全国比：+1.0)
- ・書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える【2二】(県正答率75.9%、対全国比：+1.4)
- ・伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く【4四】(県正答率74.9%、対全国比：+3.0)

○読むこと

- ・登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する【3三】(県正答率72.6%、対全国比：+1.6)

○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・文脈に則して漢字を正しく読む【4一①】(県正答率97.9%、対全国比：+0.4)
- 【4一②】(県正答率90.6%、対全国比：+1.8)

▼課題であること

▼読むこと

- ・場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する【3二】(対全国比：-0.8)

※全国平均を上回っているが、課題の見られるもの

▼書くこと

- ・書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く【2一】(県正答率25.8%)

▼読むこと

- ・文脈の中における語句の意味を理解する【3一】(県正答率43.7%)
- ・文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ【3四】(県正答率23.3%、無解答率20.4%)

▼伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・相手や場に応じて敬語を適切に使う【4三】(県正答率46.2%)

学習指導に当たって

書くこと

・読み手の立場に立って文章を整える

目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、読み手の立場に立って文章を整えるように指導する必要がある。その際、記号や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果などを確かめるように指導することが大切である。

読むこと

・文脈の中における語句の意味を理解しながら文学的な文章を読む

文学的な文章を読むためには、言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、観点を定めて読むことが必要であり、そのことによって深い理解や感動が得られる。文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進めるように指導することが大切である。

・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉える

文学的な文章を読む際には、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えるように指導する必要がある。その際、目的に応じて、細部の描写にも着目しながら物事の様子や場面、行動や心情などの変化を丁寧に捉えるように指導することが大切である。

・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする

文学的な文章を読んで自分の考えをもつためには「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりするように指導することが必要である。その上で、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることで自分の考えを確かなものにするように指導することが大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

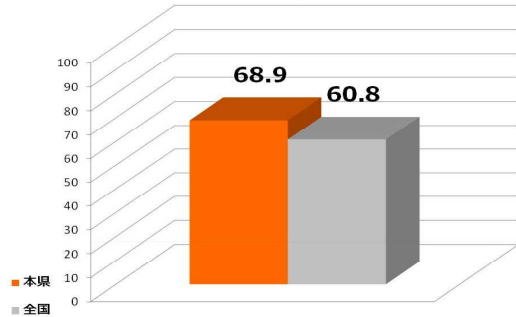
・相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使う

言葉遣いについては、小学校での学習を踏まえ、敬語を含め広く相手や場に応じた言葉遣い全般について指導する必要がある。その際、公的な場面で改まった言葉遣いをすることのほか、会話をしたり手紙を書いたりする際に相手に応じた語句を選んで用いることなどにも留意するように指導することが大切である。

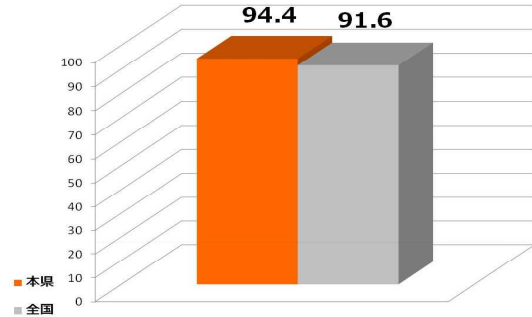
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県生徒の状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した生徒の割合(%)】

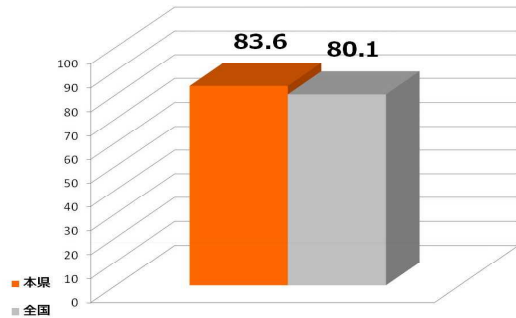
【(43) 国語の勉強は好きか】



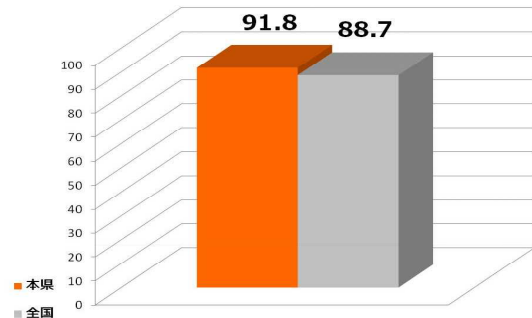
【(44) 国語の勉強は大切な】



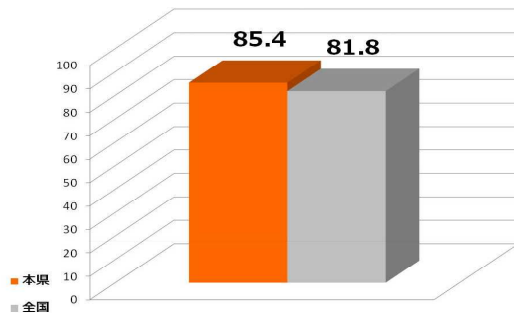
【(45) 国語の授業はよく分かる】



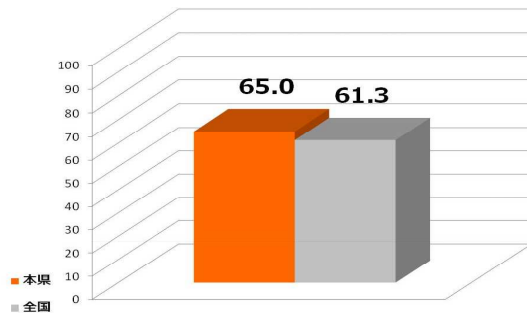
【(46) 国語の学習は、将来役に立つ】



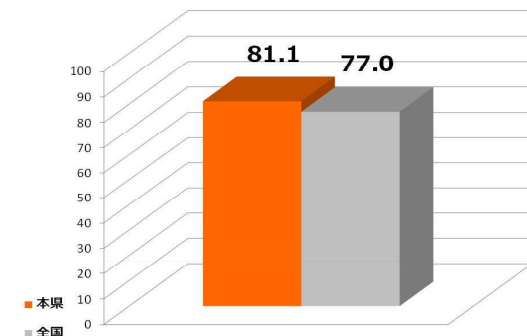
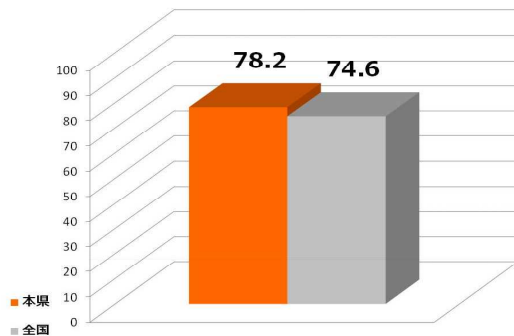
【(47) 国語の授業では言葉の特徴や使い方の知識を理解し使う】



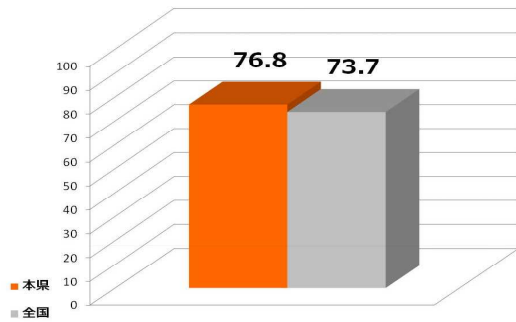
【(48) 国語の授業では目的に応じて自分の考えを話したり質問したりする】



【(49) 国語の授業では根拠を明確にしたり書いたり表現を工夫して書いたりする】 【(50) 国語の授業では文章を読み内容を解釈して考えを広げたり深めたりする】



【(51) 国語の問題では解答を文章で書く問題について最後まで書こうとした】

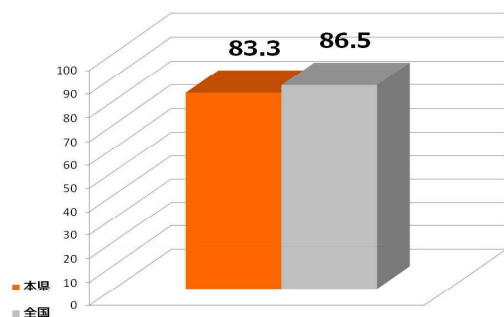


- 本県の生徒の国語学習に対する興味・関心の高さや授業の理解度等は概ね良好な状況にあり、国語の勉強が好きだと思っている生徒は全国平均を上回っている。
- 約9割の生徒が、国語の授業で学習したことは、将来役に立つと考えている。
- 本県の生徒は、国語の授業において、言葉の特徴や使い方の知識を理解し使うこと、根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりすること及び文章を読み内容を解釈して考えを広げたり深めたりすることに対する意識が、全国平均をやや上回っている。
- 国語の記述式の問題では、最後まで書こうとした割合が全国平均をやや上回っている。
- ▼国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり質問したりすることが、全国平均をやや上回っているが、他の調査項目と比べると肯定的に捉えている生徒の割合が約2割低い。

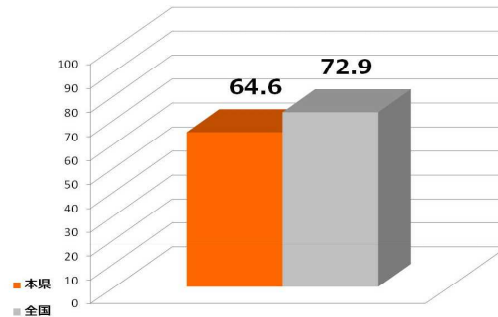
6 学校質問紙調査の結果から見える国語の指導状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した生徒の割合（％）】

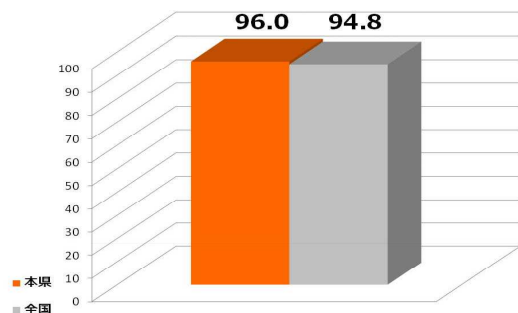
【(49) 補充的な学習の指導を行った】



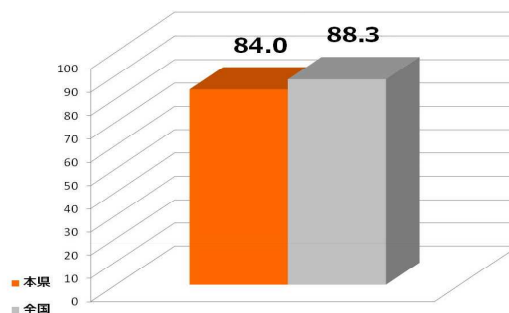
【(50) 発展的な学習の指導を行った】



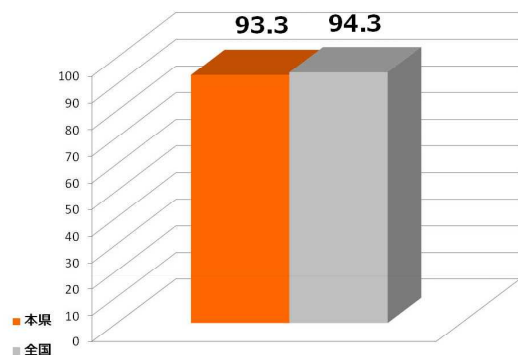
【(51) 言葉の特徴や使い方の知識を理解したり使ったりする授業を行った】



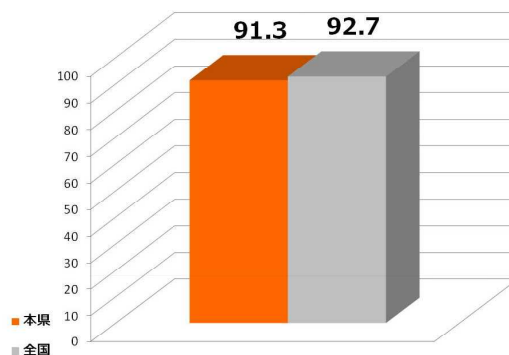
【(52) 目的に応じて自分の考えを話したり質問したりする授業を行った】



【(53) 根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりする授業を行った】



【(54) 文章を読み内容を解釈して考えを広げたり深めたりする授業を行った】



□言葉の特徴や使い方の知識を理解したり使ったりする授業、根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりする授業及び文章を読み内容を解釈して考えを広げたり深めたりする授業には、9割以上の学校で積極的に取り組んでいる。

▼発展的な学習への指導や自分の考えを話したり質問したりする授業への取組が全国平均を下回り、十分に行われていない状況にある。

7 指導改善のポイント

(1) 各領域について《令和3年度 全国学力・学習状況調査 報告書より》

話すこと・聞くこと

◆ 話し合いを効果的に進め、互いの発言を踏まえて、考えをまとめたり広げたり深めたりする指導の工夫

話し合いを効果的に進め、互いの発言を踏まえて、考えをまとめたり広げたり深めたりする力を身に付けるために、[思考力、判断力、表現力等]の「A話すこと・聞くこと」の「話すこと」に関する指導事項と、「聞くこと」に関する指導事項との関連を図って指導する必要がある。例えば、各学年の(2)イに示されているような、目的に沿って、互いの考えを伝え合ったり生かし合ったりする話し合いや議論、討論などの言語活動を通して指導することが効果的である。具体的には、第1学年では、話題や展開を捉えながら、第2学年では、互いの立場や考えを尊重しながら、第3学年では、進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合うことなどについて、生徒の実態を踏まえながら意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。その際、これまでの「A話すこと・聞くこと」の学習で身に付けた資質・能力を、実際の言語活動の中で活用しながら話し合うように指導することも重要である。

書くこと

◆ 読み手の立場に立ち、自分が書いた文章について捉え直し、分かりやすい文章に整える指導の工夫

読み手の立場に立ち、自分が書いた文章について捉え直し、分かりやすい文章に整える力を身に付けるために、第1学年では表記や語句の用法、叙述の仕方などを、第2学年では表現の効果などを、第3学年では目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめることについて指導する必要がある。その際、第1学年[知識及び技能](1)エの「指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。」との関連を図ることや、第2学年[知識及び技能](1)オの「話や文章の構成や展開について理解を深めること。」との関連を図ることなども有効である。

読むこと

◆ 文章の内容を理解したり自分の考えを形成したりする指導の工夫

文章の内容を理解したり自分の考えを形成したりする力を身に付けるために、[思考力、判断力、表現力等]の「C読むこと」の学習過程を意識しながら、各指導事項について意図的・計画的に指導する必要がある。例えば、各学年の(2)イに示されているような、文学的な文章を読んで考えたことなどを記録したり伝え合ったりする言語活動を通して指導することが効果的である。また、各学年の[知識及び技能](3)の「読書」に関する事項との関連を図り、生徒の日常の読書活動に結び付くように指導することも有効である。

言葉の特徴や使い方に関する事項

◆ 敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使う指導の工夫

敬語などの相手や場に応じた言葉遣いについて理解し、適切に使う力を身に付けるために、小学校での学習を踏まえ、敬語に関する個々の体験的な知識を整理して体系付けるとともに、人間関係の形成や維持における敬語のもつ働きを理解するように指導する必要がある。また、話や文章の中で、相手や場に応じた語句を選んで用いることに留意するように指導することも大切である。その際、各学年の[思考力、判断力、表現力等]の「B書くこと」(2)イに示されているような、実用的な文章を書く言語活動との関連を図ることも有効である。

(2) 質問紙調査の結果を踏まえて

国語で正確に理解し適切に表現する力を育成する授業構想

◆ 適切な言語活動の設定

国語科の学習においては、言語に対する知識及び技能の学習だけでなく、それらを活用し、言葉による「見方・考え方」を働かせて、思考、判断、表現することで資質・能力を高めることができる言語活動を意図的に設定した単元構想による学習を積み重ねることが必要となる。知識や技能を使って考えたり、それを表現したりする授業を通して、自らがもつ知識や能力を引き出して結び付け、課題解決を通して学んだ成果を自覚させることの繰り返しを通して能力を育てていくことが大切である。そこで、①単元の目標、②単元で扱う指導事項と関連付けた、教材が持っている特徴を明らかにした上での、学習者の視点を大切に教材研究、③言語活動例を踏まえた具体的な言語活動、この3つに整合性のある単元を構想することが重要である。

◆ 「指導と評価の一体化」による指導の改善・充実

国語で正確に理解し適切に表現する力を伸ばす授業を実現するためには、単元の目標を明確にした「指導と評価の一体化」を図ることが不可欠である。そのために、単元ごとの目標と内容を分析し、どのような資質・能力をどこまで育成するのかなどのねらいを明確にした、観点別学習状況の具体的な評価規準を設定するとともに、評価場面と評価方法を明らかにする必要がある。

その上で、生徒の学習状況を常に把握しながら指導を進め、指導の改善を不断に行いながら進められるよう、「指導と評価の一体化」による指導の改善・充実を日常的に図ることが重要である。

〈令和元年度県学習状況調査を踏まえて（国語）〉

令和元年度県学習状況調査実施報告書において、本県の中学生は「読むこと」に課題があると分析した。

「読むこと」領域については、文学的な文章、説明的文章に共通して、文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつことができるかを判断する問題や筆者の文章の述べ方について問う問題の誤答が多いことから、課題として、本文の内容を正確に捉えるために、語句に着目して解釈する力が不足していることが考えられる。今後の指導に当たっては、文章の内容を正確に捉えさせるために、文章全体を読解させる指導と並行して、語句の意味や使い方などを捉えさせる指導を行うことが大切である。

また、説明的な文章においては、文章に表れている筆者のものの考え方について、本文中から選択した語句を補充し、まとめることができるかを判断する問題において、約4割が無答であった。課題として、段落の要点を確認しながら文章全体の話の流れを捉えたり、前後の内容から語句の意味を捉えて筆者の気持ちや判断を考えたりする力が不足していることが考えられる。今後の指導に当たっては、段落相互の関係や段落の役割を考えること、部分の具体的な表現を手掛かりにして全体としてどのようなことが言えるのかを自分の言葉で表現することなど、部分と全体とを関連付け、自分の言葉で意味付けて理解する力を高めることが大切である。

【令和元年度県学習状況調査実施報告書より】

令和3年度の全国学力・学習状況調査においても、「読むこと」領域において、場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解することや、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題が見られた。また、「話すこと・聞くこと」領域においては、質問の意図を捉えることや、話合いの話題や方向を捉えて話す内容を考えることに課題があった。

文学的な文章を読む際には、登場人物の言葉や行動が話の展開などどのように関わっているかを考えながら読むよう指導することが大切である。その際、これまでの「C読むこと」の学習を踏まえて、個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけでなく、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行うように指導することが大切である。

「話すこと・聞くこと」領域では、話題や展開を捉えながら話し合うためには、何についてどのような目的で話し合っているかを常に意識するように指導することが大切である。その際、多くの発言によって考えを広げていく目的や、出された発言の内容を整理しながら考えをまとめる目的など、話合いにおける目的を明確に示しながら指導することが重要である。

※授業改善の具体例

以下の資料を併せて参照してください。

- ・令和元年度県学習状況調査実施報告書
- ・令和3年度全国学力・学習状況調査報告書
- ・令和3年度全国学力・学習状況調査報告書の結果を踏まえた授業アイデア例

Ⅲ 数学

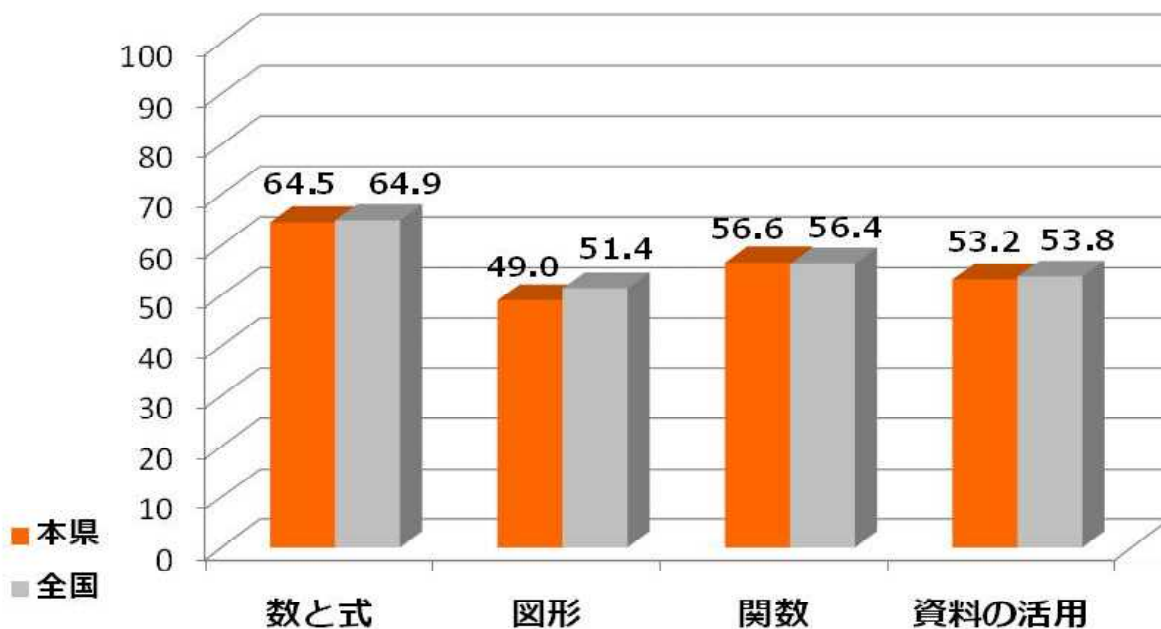
Ⅰ 教科全体の結果

数学の平均正答率 (%)		
青森県	全国平均との差	令和元年度全国平均との差
56	-1.2	-5.0

□ 数学全体として本県は、全国と同程度である。

Ⅱ 領域別の正答率

分類	区分	平均正答率		
		青森県	全国比	令和元年度全国平均との差
学習指導要領の領域	数と式	64.5	-0.4	+2.4
	図形	49.0	-2.4	-0.1
	関数	56.6	+0.2	+1.7
	資料の活用	53.2	-0.6	+0.5
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	/	/	/
	数学的な見方や考え方	38.3	-2.8	-0.2
	数学的な技能	80.6	+2.9	+5.5
	数量や図形などについての知識・理解	65.1	-0.5	+0.5



□ 図形の領域において、平均正答率は、全国平均をやや下回っている。

□ 残りの3領域において、平均正答率は、全国平均と同程度である。

3 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率		
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	青森県	全国	全国との差
1	$(5x + 6y) - (3x - 2y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	2(1)ア					○				○		81.4	77.1	4.3
2	数量の関係を一元一次方程式で表す	具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる	1(3)ウ					○				○		72.9	71.3	1.6
3	中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ	扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している	1(2)ウ						○	○				67.9	68.1	-0.2
4	経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している			1(1)ア					○		○		50.0	48.0	2.0
5	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられたデータから中央値を求めることができる			1(1)ア				○			○		87.4	84.5	2.9
6(1)	四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	2(1)イ,ウ					○				○		83.1	83.9	-0.8
6(2)	四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1)イ,ウ					○				○		56.8	61.8	-5.0
6(3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる	2(1)イ,ウ					○				○		28.3	30.3	-2.0
7(1)	与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる			1(1)ウ					○		○		93.9	93.5	0.4
7(2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			1(1)エ,オ				○			○		25.8	27.7	-1.9
8(1)	気温差が9℃以上12℃未満の階級の度数を書く	ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる			1(1)ア					○		○		83.4	83.0	0.4
8(2)	2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ	相対度数の必要性和意味を理解している			1(1)ア					○	○			33.4	36.8	-3.4
8(3)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1(1)イ				○			○		8.4	11.1	-2.7
9(1)	四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になること理由を説明することができる	2(2)イ,ウ					○				○		38.5	44.3	-5.8
9(2)	錯角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す	錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している	2(1)ア							○		○		62.1	64.3	-2.2
9(3)	$\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる	2(1)ア					○				○		27.3	28.8	-1.5

4 問題別集計結果の状況

○良好であること

○数と式

- ・ 整式の加法と減法の計算ができる。
（【1】対全国比：+4.3）
- ・ 具体的な場面で、一元一次方程式をつくることのできる。
（【2】対全国比：+1.6）

○関数

- ・ 関数の意味を理解している。
（【4】対全国比：+2.0）
- ・ 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。
（【7（1）】対全国比：+0.4）

○資料の活用

- ・ 与えられたデータから中央値を求めることのできる。
（【5】対全国比：+2.9）
- ・ ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることのできる。
（【8（1）】対全国比：+0.4）

▼課題であること

○数と式

- ・ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
（【6（2）】対全国比：-5.0）
- ・ 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる。
（【6（3）】対全国比：-2.0）

○図形

- ・ 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる。
（【9（1）】対全国比：-5.8）
- ・ 錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している。
（【9（2）】対全国比：-2.2）
- ・ ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる。
（【9（3）】対全国比：-1.5）

○関数

- ・ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
（【7（2）】対全国比：-1.9）

○資料の活用

- ・ 相対度数の必要性と意味を理解している。
（【8（2）】対全国比：-3.4）
- ・ データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
（【8（3）】対全国比：-2.7）

学習指導に当たって

数と式

- ・文字を用いた式の計算ができるようにする。
- ・数学的に問題解決するために、文字を用いた式の計算や処理を的確にできるようにする。
- ・具体的な問題の解決に方程式を活用するために、方程式をつくることができるようにする。
- ・方程式を用いて問題解決することを通して、方程式を活用することのよさを実感できるようにする。
- ・成り立ちそうな事柄を予想したり、それを確かめたりすることを通して、考察の対象を明確に捉えることができるようにする。
- ・事柄が成り立つ理由を、構想を立て、根拠を明確にして説明できるようにする。
- ・事柄の特徴を捉え、それを数学的に説明できるようにする。
- ・統一的・発展的に考察することができるようにする。

図形

- ・扇形を円の一部として捉え、中心角の大きさに伴って変わる数量に着目し、その関係を見いだすことができるようにする。
- ・図形の性質を数量の関係に着目して捉え直し、その特徴を数学的に表現することができるようにする。
- ・事柄が成り立つことについて、根拠を明確にして説明することができるようにする。
- ・結論が成り立つための前提を、数学的に表現できるようにする。
- ・ある条件の下で成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現できるようにする。
- ・観察や操作、実験などの活動を通して、図形の性質を見いだすことや、発展的に考察することができるようにする。

関数

- ・様々な事象の考察を通して、関数の意味を理解できるようにする。
- ・身の回りにある事象を関数関係として捉え、考察することができるようにする。
- ・与えられたグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるようにする。
- ・実験で得られたデータを理想化したり単純化したりして、その特徴を的確に捉えることができるようにする。
- ・問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする。
- ・日常生活における問題の解決に数学を活用できるようにする。

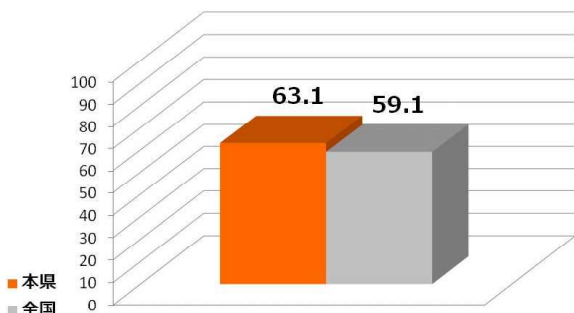
資料の活用

- ・データの特徴を捉えるために、代表値を求めることができるようにする。
- ・代表値を用いて、データの傾向を的確に読み取ることができるようにする。
- ・データの傾向を読み取るために、度数分布表やヒストグラムから必要な情報を読み取ることができるようにする。
- ・相対度数の必要性と意味について理解できるようにする。
- ・判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにする。
- ・目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って批判的に考察し判断することを通して、統計的に問題解決することができるようにする。

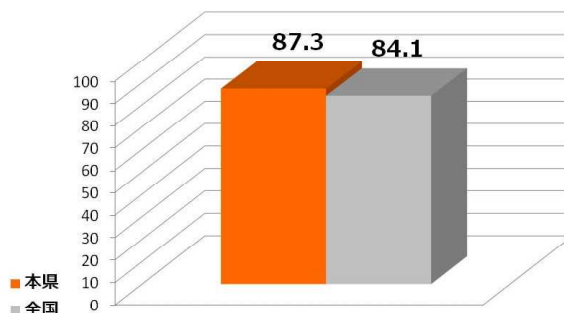
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県生徒の状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した生徒の割合（％）】

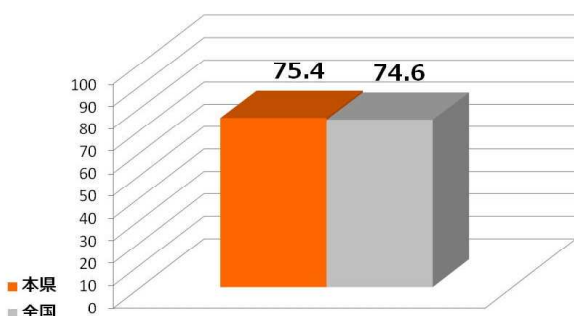
【(52) 数学の勉強が好きか】



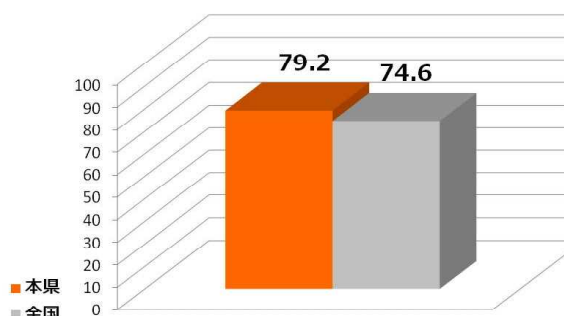
【(53) 数学の勉強は大切か】



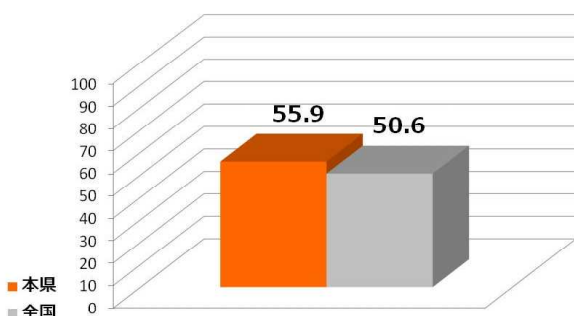
【(54) 数学の授業はよく分かる】



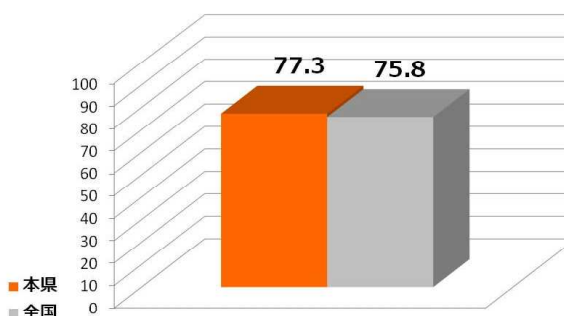
【(55) 数学の授業で学習したことは、将来役に立つと思う】



【(56) 数学の授業で学習したことを、普段の生活で活用できるか考える】



【(57) 数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える】

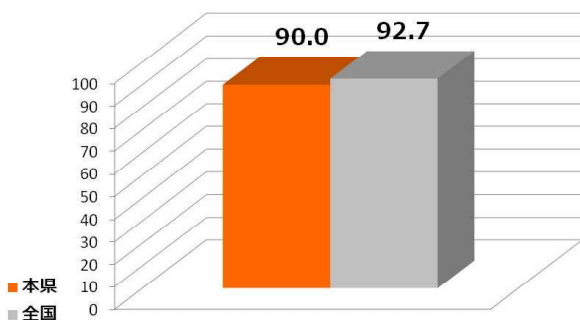


- 生徒の数学の学習に対する興味・関心や授業の理解度等は概ね良好な状況にあり、数学で学習したことは、将来役に立つと思う及び数学の授業で学習したことを、普段の生活で活用できるか考えると回答した生徒が全国平均を上回っている。
- 8割以上の生徒が、数学の勉強は大切であると考えている。
- 数学の勉強が好きか、数学の勉強は大切か、数学の授業はよく分かる、数学の授業で学習したことは、将来役に立つと思うの質問項目は前回と同様であるが、全項目で前回の割合よりも増えている。

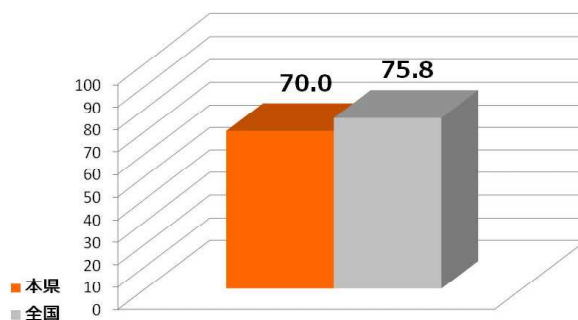
6 学校質問紙調査の結果から見える数学の指導状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した学校の割合（％）】

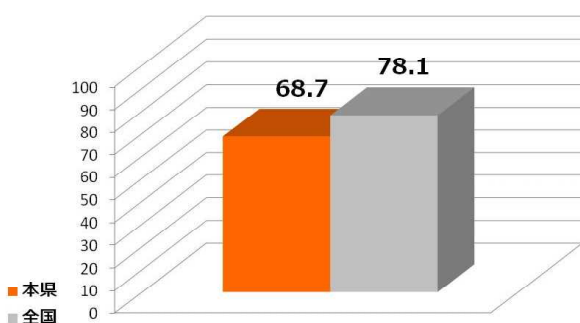
【(55) 補充的な学習指導を行ったか】



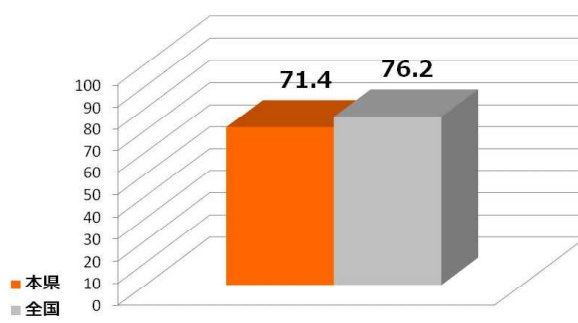
【(56) 発展的な学習指導を行ったか】



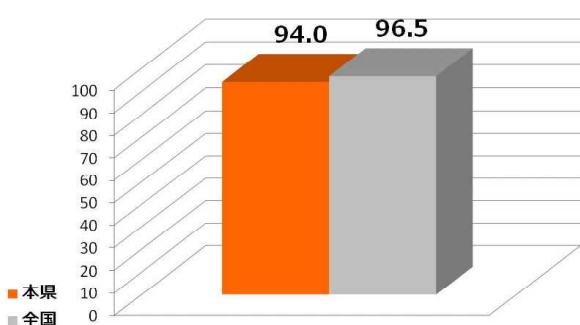
【(57) 実生活における事象との関連を図った授業を行ったか】



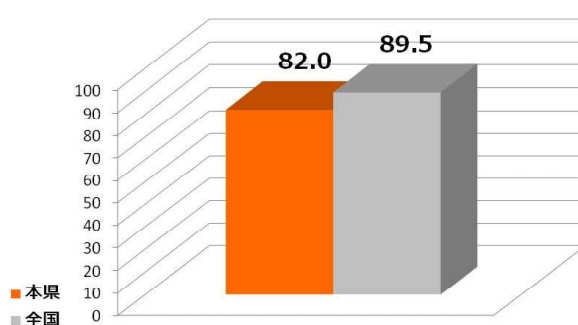
【(58) 観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行ったか】



【(59) 公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していたか】



【(60) 問題の解き方や考え方の過程が分かるよう工夫してノートを書く指導を行ったか】



- 数学の指導として、過年度までに補充的な指導を行った割合は全国平均よりやや下回っているが、9割である。
- 数学の指導として、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫した割合は全国平均よりやや下回っているが、9割以上である。
- ▼数学の指導として、特に発展的な学習指導を行った割合、実生活における事象との関連を図った授業を行った割合、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行った割合が、全国平均を下回っている。

7 指導改善のポイント

(1) 各領域について（令和3年度全国学力・学習状況調査報告書より）

数と式

◆ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する活動の重視

事柄が一般的に成り立つ理由を、筋道を立てて説明できるようにするために、成り立つと予想した事柄について、文字式や言葉を用いて解決するための見通しをもち、その見通しを基に根拠を明らかにして説明する活動を重視することが大切である。

◆ 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明する活動の充実

数の性質について成り立つ事柄の特徴を数学的に説明することができるようにするために、文字を用いて表した計算結果を事象と関連付けて読み取る活動を充実することが大切である。

図形

◆ 円と扇形との比較を通して、扇形の特徴を的確に捉える活動の重視

扇形の中心角と弧の長さや面積との関係の理解を深めることができるようにするために、扇形が円の一部分であり、その面積や弧の長さを何倍かすると、元の円になることを確認するなど、扇形の特徴を的確に捉える活動を重視することが大切である。

◆ ある条件下で成り立つ事柄を見だし、それを数学的に表現する活動の充実

ある条件の下で図形を動かしたとき、常に成り立つ事柄を見だし、それを数学的に表現する活動を充実することが大切である。その際、図形の構成要素に着目するなどして、いつでも成り立つ事柄を見いだす場面を設定することが考えられる。

関数

◆ 関数の意味を理解するために、二つの数量について、変化や対応の様子に着目してその関係を的確に捉える活動の重視

関数の意味を理解するために、具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出し、それらの関係を見いだす活動を重視することが大切である。その際、二つの数量の変化や対応の様子に着目し、独立変数と従属変数との違いを考察する場面を設定することが考えられる。

◆ 事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実

様々な問題を数学を活用して解釈できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実することが大切である。その際、方法の説明として不十分なものを取り上げ吟味する場面を設定し、説明を洗練していく活動を取り入れることが重要である。

データの活用

◆ 相対度数の必要性や意味を理解するために、大きさの異なる二つ以上の集団のデータの傾向を比べる活動の重視

大きさの異なる二つ以上の集団のデータについて、その傾向を比較する活動を重視するこ

とが大切である。その際、度数の合計が異なる二つの集団のデータを各階級の度数で比べてよいかについて検討する場面を取り入れ、相対度数の必要性を実感できるようにすることが重要である。

◆ 判断の理由を説明するために、データの傾向を的確に捉える活動の充実

日常生活や社会における問題を取り上げ、その問題の解決のために収集したデータの傾向を的確に捉える活動を充実することが大切である。その際、データを整理したグラフの形から分布の特徴を視覚的に捉えたり、代表値を求めて比較したりするなど、数学的な表現を用いて判断の理由を説明することが大切である。

(2) 質問紙調査の結果を踏まえて

数と式

◆ 事象の中に数量の等しい関係を捉え、具体的な問題の解決のために方程式をつくることができるように指導することが重要

問題解決の場面で方程式を活用する際に、問題の中にある数量やその関係を捉え、一元一次方程式をつくることができるようにすることが大切である。

例えば、本問2の問題を使って授業を行う際には、求めたい数量のノート1冊の値段を x 円とし、ノート2冊と筆箱1個を買ったときの代金 $2x + 800$ (円) とノート4冊とシャープペンシル1本を買ったときの代金 $4x + 500$ (円) が等しい関係にあることから、代金を表した二つの式を等号で結んで方程式に表せることを確認する場面を設定することが考えられる。その際、線分図などで整理して数量の関係を捉える活動を取り入れることが考えられる。

図形

◆ 扇形を円の一部として捉え、中心角の大きさに伴って変わる数量に着目し、その関係を見いだすことができるように指導することが重要

円や扇形の学習を進める際に、半径が等しい円と扇形を比較する機会を設定し、扇形を円の一部として捉えることができるように指導することが大切である。

例えば、本問3の問題を使って授業を行う際には、円を折ったり、切ったりしてできた扇形と元の円を比べる活動を行うなど、観察や操作、実験を通して、扇形と円を関連付けて捉える場面を設定することが考えられる。さらに、半径を一定にして、中心角を様々な大きさに変えた扇形の弧の長さや面積を調べ、表や式に表すことを通して、それらが扇形の中心角に伴って変わる数量となっていることを確認する場面を設定することが考えられる。

関数

◆ 実験で得られたデータを理想化したり単純化したりして、その特徴を的確に捉えることができるように指導することが重要

日常的な事象における伴って変わる二つの数量について、観察や操作、実験などの活動から得られたデータを、表やグラフに表現することを通して、その二つの数量の関係を捉えることができるように指導することが大切である。

例えば、本問7の問題を使って授業を行う際には、伴って変わる二つの数量として「砂の重さ」と「砂が落ちきるまでの時間」に着目し、実験で得られたデータを座標平面や表に表し、表されたグラフや表のもつ性質を利用してその関係を見いだす活動を取り入れることが大切である。その際、表や数値を用いて求めた割合が一定であると考えたり、座標平面上に表された点が原点を通る一直線上にあると考えたりするなど、理想化したり単純化したりすることで、二つの数量の関係を比例とみなして問題を解決できるようにすることが大切である。

データの活用

◆ データの傾向を読み取るために、度数分布表やヒストグラムから必要な情報を読み取ることができるよう指導することが重要

データの分布の傾向を捉える場面を設定し、目的に応じて度数分布表やヒストグラムにおける階級の度数に着目するなどして、必要な情報を読み取ることができるよう指導することが大切である。

例えば、本問⁸の問題を使って授業を行う際には、収集したデータを基に、ヒストグラムを作成し、データの傾向を読み取る場面を設定することが考えられる。その際、作成したヒストグラムにおいて、目的に応じて階級の度数を的確に読み取ることが大切である。その上で、階級の小さい方からある階級までの度数の総和に着目して、データの傾向を捉えることも考えられる。

<令和元年度県学習状況調査を踏まえて（数学）>

令和元年度学習状況調査実施報告書において、本県の中学生は内容・領域別にみた状況では「数と式」と「図形」の領域に課題があると分析した。

「数と式」については、文字を用いた式を使って、ある命題が成り立つことを説明する場面で、文字を用いて表現したり、文字を用いた式の意味を読み取ったり、計算したりすることに課題があり、数量の関係を帰納や類推によって推測し、文字を用いた式で一般的に表現し説明することの必要性と意味を理解させ、文字を用いた式を具体的な場面で活用する能力を養うことが大切であるとした。

「図形」については、実際に立体を平面上に展開して求めるなどの活動を通して、展開図の有用性を実感する学習をすることに課題があり、問題解決などの手順を形式的に覚えさせるのではなく、具体的な空間図形について、その見取図、展開図、投影図を用い、図形の各要素の位置関係を調べることを通して、論理的に考察する力を養うことが大切であるとした。

【令和元年度県学習状況調査実施報告書より】

令和3年度全国学力・学習状況調査では、「数と式」については、計算の法則を確認したり、計算の過程を振り返ったりする活動を取り入れるとともに、文字を使って数や図形の性質を説明したり、方程式を解いたりする場面において、形式的な処理によって容易に結果が得られるように指導することが大切である。

「図形」については、事柄が成り立つことを説明するために、何を示せばよいかを明らかにし、着目すべき性質や関係を見いだす活動を取り入れ、根拠を明確にして説明することができるよう指導するとともに、図形の性質を考察する場面では、観察や操作、実験などの活動を通して、予想した事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えたり、条件を変えるなどして発展的に考察したりする活動を取り入れることが大切である。

※授業改善の具体例

以下の資料を併せて参照してください。

- ・令和元年度県学習状況調査実施報告書
- ・令和3年度全国学力・学習状況調査報告書
- ・令和3年度全国学力・学習状況調査報告書の結果を踏まえた授業アイデア例

V 質問紙調査

質問紙調査の結果については、以下の視点で分析を行った。

- ・良好な状態を把握するために、
 - 全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かったか。
 - 望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）か。
- ・課題となっている状況を把握するために、
 - ▼全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かったか。
 - ▼望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）か。

I 生徒質問紙調査の結果と今後の対策

※★印の項目に肯定的に回答した児童は、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(1) 基本的生活習慣等

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
5 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をするか（★） 【「4時間以上」「3時間以上、4時間より少ない」の合計】	26.7	-5.6	+6.0 ⑳

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 普段（月曜日から金曜日）、1日当たり3時間以上、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしている生徒の割合は、平成29年度に比べ、増加傾向にある。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 朝食の摂取、規則正しい起床、就寝等、概ね良好な状況であるため、引き続き、学級懇談等の場等において、課題を話し合ったり、家庭でのルールづくりを促したりするなど、保護者と連携していくことが必要である。

(2) 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
7 将来の夢や目標を持っているか 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	75.9	+7.3	-0.1 ㉑

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 将来の夢や目標を持っていると考えている生徒の割合は、全国平均を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
11 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか 【当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計	97.2	+1.3	+0.4 ③
12 人の役に立つ人間になりたいか 【当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計	96.3	+1.3	+0.8 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- いじめはどんな理由があってもいけないことだと考えている生徒の割合は、極めて高い。
- 人の役に立ちたいと考えている生徒の割合は、極めて高い。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 本県の生徒は、自己肯定感が概ね高く、将来の夢や目標をもっている傾向にある。また、学校の規則を守ること、いじめはいけない行為であると認識していること、人の役に立つ人間になりたいと考えていること、更には、物事を最後までやり遂げる責任感においても高い状況にある。今後とも、あらゆる教育活動において、生徒指導の機能を生かした指導の充実を図るとともに、道徳教育や体験活動等を通じて、豊かな人間性を育む教育を重視することが大切である。

(3) 学習習慣・学習環境等

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
19 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）（★） 【2時間以上」の合計	54.4	+0.9	+6.7 ②

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、2時間以上勉強をしている生徒の割合は、過年度に比べ、増加傾向にある。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
18 学校の授業時間以外に、普段（月から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強するか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に先生に教わっている時間も含む）（★） 【2時間以上】の合計	27.6	-14.2	+4.6 ③
20 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっているか（インターネットを通じて教わっている場合も含む） ※学習塾や家庭教師に教わっている割合 【学習塾や家庭教師に教わっている】の合計	30.6	-28.5	-2.2 ⑳

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
18 学校の授業時間以外に、普段（月から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強するか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に先生に教わっている時間も含む）（★） 【2時間以上】の合計	27.6	-14.2	+4.6 ③
20 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっているか（インターネットを通じて教わっている場合も含む） ※学習塾や家庭教師に教わっている割合 【学習塾や家庭教師に教わっている】の合計	30.6	-28.5	-2.2 ⑳

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 学校の授業時間以外に、平日、1日当たり2時間以上、勉強している割合は全国平均と比べ、大きく下回っている。

※3時間以上(5.8%) 2～3時間(21.8) 1～2時間(42.3%)
30分～1時間(20.0%) 30分未満(7.3%) 全くしない(2.7%)

- ▼ 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっている割合は全国平均と比べ、大きく下回っている。

※教わっていない(65.6%)
学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を教わっている(8.0%)
学校の勉強でよく分からなかった内容を教わっている(7.1%)
上記の両方を教わっている(15.5%) 上記のどちらとも言えない(3.6%)

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
21 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書するか 【2時間以上】「1時間以上、2時間より少ない」の合計	15.2	+1.1	+0.7 ③
23 新聞を読んでいるか 【ほぼ毎日読んでいる】「週に1～3回程度読んでいる」の合計	12.5	+2.1	-2.3 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 平日に1時間以上読書をしている割合は全国平均と同程度であるが、2割に満たない。
- ▼ 週に1回以上新聞を読んでいる割合は全国平均と同程度であるが、2割に満たない。

②今後の対策・指導

- ◆ 家庭学習の時間を確保するために、学級活動等の時間において、生徒に1日の生活の効果的な過ごし方を話し合わせる活動を定期的に行ったり、月単位、学期単位、年間単位等の長い期間での学習計画を立てる活動を行ったり、生徒同士が家庭学習時間の確保や家庭学習の方法を話し合ったりするなどの活動を取り入れ、生徒自身が見通しをもって、家庭学習に取り組めるよう指導する。
- ◆ 家庭学習習慣の確立には、家庭との連携が不可欠であることから、学級懇談会や学級通信等を通じて、学級活動等で生徒自身が考えた学習計画を共有したり、県教育委員会作成のリーフレット等を活用して、家庭学習習慣の確立に向けて協力を呼びかけたりしていくことが必要である。
- ◆ 読書については、日常生活において読書に親しむ習慣を身に付けるよう指導したり、学校図書館を計画的に利用するよう促したりする必要がある。また、新聞などを活用して得た情報を比較したり、論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読んだりすることが大切である。

(4) 地域や社会に関わる活動の状況等

①概況及び課題

【全国平均及び過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
25 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	50.3	+6.5	+5.6 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考える生徒の割合は、全国平均を上回っており、過年度に比べ、増加傾向にある。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
24 今住んでいる地域の行事に参加しているか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	44.3	+0.6	-2.9 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 今住んでいる地域の行事に参加していると考えている生徒の割合は、全国平均と同程度であるものの、5割に満たない。

また、令和2年度学習状況調査において実施した質問紙調査では、同様の質問に対して、62.4%の生徒が地域の行事に参加していると回答していた。

②今後の対策・指導

- ◆ 地域や社会に対する興味・関心をもつことは生徒の視野を広げ、自己の将来を具体的に描くことや学習に対する意欲付けにつながる効果も期待できることから、生徒が地域の行事や社会貢献活動等に自ら参加するよう促したり、参加できる環境を学校が積極的に整えたりすることが大切である。
- ◆ 教科等の授業の際、地域や社会とのつながりをもたせた学習指導を行うことで、学習した内容を実生活で生かせる実感をもたせるとともに、学習内容に関連する記事を取り上げたり、短学活で新聞記事等を紹介し、その出来事について、生徒自身の考えをもたせたりする活動等を継続的に取り入れていく必要がある。

- ◆ 総合的な学習の時間において、地域の方に関わる場を設定したり、地域の課題解決を検討したりするような学習活動を取り入れ、地域の一員として自覚や参画する意識を育てるよう指導することが大切である。

(5) ICTを活用した学習状況

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
26 1、2年生の時に受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用したか 【「ほぼ毎日」「週1回以上」の合計】	37.6	+4.2	+6.6 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTを週1回以上使用した生徒の割合は、過年度に比べ、増加傾向である。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
26 1、2年生の時に受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用したか 【「ほぼ毎日」「週1回以上」の合計】	37.6	+4.2	+6.6 ③
27 学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用しているか 【「ほぼ毎日」「週1回以上」の合計】	32.9	-1.9	新規
29 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っているか 【「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」の合計】	6.3	-0.7	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTを週1回以上使用した生徒の割合は、4割に満たないものの、全国平均を上回っている。
- ▼ 学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、週1回以上使用した生徒の割合は、全国平均を下回り、4割に満たない。
- ▼ 普段（月曜日から金曜日）、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために、1日当たり2時間以上使っている生徒の割合は、全国平均を下回り、1割に満たない。

②今後の対策・指導

- ◆ 各教科等の指導でICTを活用することは、子供たちの学習への興味・関心を高め、分かりやすい授業や「主体的・対話的で深い学び」の実現や、個に応じた指導の充実に資するものである。
- ◆ ICT機器を活用した教育の普及啓発及びICTを活用した授業に取り組む必要がある。

(6) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
33 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか(★) 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	83.3	+2.3	+6.6 ③
37 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか(★) 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	81.8	+4.0	+6.9 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると考えている生徒の割合は、平成31年度に比べ、増加傾向にある。
- 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている生徒の割合は、平成31年度に比べ、増加傾向にある。

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度)質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
30 家でどれくらい日本語を話すか 【いつも話している】「ほとんどいつも話している」の合計	97.0	+0.7	新規
36 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができているか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	99.5	+0.2	+3.9 ②

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 家で日本語を話す生徒の割合は、極めて高い。
- 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている生徒の割合は、極めて高い。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった(概ね50%未満)質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 今後も、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、本県児童生徒の実態を踏まえ、授業改善を進める必要がある。その際、生徒の学習意欲や疑問を引き出しながら、分かる授業を展開する。
- ◆ 生徒が学ぶ意欲を実感し、学習意欲を高めるために、自らの学習状況等を振り返る学習活動を取り入れる。

(7) 総合・学級活動・道徳

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
39 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思うか(★) 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	74.9	+4.7	+8.2 ③

40 学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	79.7	+5.8	+2.0 ③
41 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいるか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	77.5	+7.7	+4.7 ③
42 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいるか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	90.7	+4.5	+9.1 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると考えている生徒の割合は、平成31年度に比べ、増加傾向にある。
- 学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると考えている生徒の割合は、全国平均を上回っている。
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると考えている生徒の割合は、全国平均を上回っている。
- 道徳の授業に、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる生徒の割合は、過年度に比べ、増加傾向にある。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 総合的な学習の時間においては、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する必要がある。
- ◆ 学級活動の授業においては、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する授業を行う必要がある。
- ◆ 道徳科の授業においては、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる必要がある。

(8) 新型コロナウイルス感染症の影響

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
65 新型コロナウイルス感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができたか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	39.6	+2.0	新規

▼ 新型コロナウイルス感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができた生徒の割合は、4割に満たないものの、全国平均を上回っている。

②今後の対策・指導

- ◆ 今後も感染予防に努め、規則正しい生活リズムを心がける必要がある。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、生徒の学びを保障することとの両立を図り、新しい生活様式を踏まえた教育活動を継続して行うことが大切である。

2 学校質問紙調査の結果と今後の対策

※★印の項目に肯定的に回答した生徒は、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(1) 生徒指導等

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
8 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	98.6	+0.7	-0.1 ③
10 学習規律（他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど）を維持したか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	98.0	-0.8	+1.9 ③
11 学校生活の中で、生徒一人ひとりのよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	98.0	-0.6	±0.0 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした学校の割合は極めて高い。
- 学習規律を維持した学校の割合は極めて高い。
- 学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行った学校の割合は極めて高い。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 学習規律については、極めて良好な状況であり、指導が行き届いている。今後も引き続き、生徒指導の機能を生かし、指導の充実を図っていくことが望まれる。

(2) 学校運営に関する取組状況、教職員の資質能力の向上

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
25 教員は、校外の各教科等の教育に関する研究会に定期的・継続的に参加しているか 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	87.3	+11.7	-7.6 ③
26 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させているか 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	90.0	+5.5	-8.1 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 教員が校外の各教科等の教育に関する研究会に定期的・継続的に参加している学校の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- 教職員が校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている学校の割合は、全国平均を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
15 学校として、必要な場合に、変化に柔軟に対応しているか【している】「どちらかといえば、している」の合計	99.3	-0.1	新規
17 学級運営の状況や課題を全教職員間で共有し、学校として組織的に取り組んでいるか 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	96.0	-2.0	-3.4 ③
19 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立しているか 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	96.6	+3.9	-1.4 ③
22 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っているか 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	96.0	-1.2	-2.0 ③
27 学習指導と学習評価の計画の作成に当たって、教職員同士が協力し合っているか 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	95.3	-1.5	+2.4 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 必要な場合に、変化に柔軟に対応している学校の割合は、極めて高い。
- 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる学校の割合は、極めて高い。
- 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している学校の割合は、極めて高い。
- 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている学校の割合は、極めて高い。
- 学習指導と学習評価の計画の作成に当たって、教職員同士が協力し合っている学校の割合は、極めて高い。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
12 校長として、現在、最も学びたいと感じていることは何か 【教員の資質能力の向上の方法】の割合	36.7	-5.2	新規
13 教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行ったか 【週に1回程度、または、それ以上】「月に数回程度」の合計	32.7	-22.8	新規
14 教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行ったか 【週に1回程度、または、それ以上】「月に数回程度」の合計	49.4	-18.9	新規
18 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列しているか 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	85.3	-5.3	-7.0 ③
21 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいるか 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	87.4	-6.9	-8.7 ③
23 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っているか 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	92.0	-1.9	-6.0 ③
24 生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っているか 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	72.0	-5.7	+9.2 ③
25 教員は、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加しているか 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	87.3	+11.7	-7.6 ③
26 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させているか 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	90.0	+5.5	-8.1 ③
28 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしているか 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	76.0	-3.1	-11.8 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 校長として、現在、最も学びたいと感じていることとして、教員の資質能力の向上の方法を考えている割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行っている学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行った学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している学校の割合は、全国平均に比べ、下回っており、過年度より減少している。
- ▼ 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる学校の割合は、全国平均に比べ、下回っており、過年度より減少している。
- ▼ 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている学校の割合は、過年度に比べ、減少している。

- ▼ 生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている学校の割合は、全国平均に比べ、下回っているが、過年度より増加している。
- ▼ 教員は、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している学校の割合は、全国平均に比べ、大きく上回っているが、過年度より減少している。
- ▼ 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている学校の割合は、全国平均に比べ、上回っているが、過年度より減少している。
- ▼ 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしている学校の割合は、過年度に比べ、大きく減少している。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
12 校長として、現在、最も学びたいと感じていることは何か 【教員の資質能力の向上の方法】の割合	36.7	-5.2	新規
13 教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行ったか 【週に1回程度、または、それ以上】「月に数回程度」の合計	32.7	-22.8	新規
14 教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行ったか 【週に1回程度、または、それ以上】「月に数回程度」の合計	49.4	-18.9	新規

- ▼ 校長として、現在、最も学びたいと感じていることとして、教員の資質能力の向上の方法を考えている割合は、全国平均を下回っており、4割に満たない。
- ▼ 教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行っている学校の割合は、全国平均を大きく下回っており、4割に満たない。
- ▼ 教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行った学校の割合は、全国平均を大きく下回っており、5割に満たない。

②今後の対策・指導

- ◆ 今後も次のような視点をもって学習の効果が最大限に図られるようカリキュラム・マネジメントに取り組んでいく必要がある。
 - ・各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していく。
 - ・教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づいて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立する。
 - ・教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせる。
- ◆ 校長のリーダーシップのもと、校内研修が極めてよくなされており、教員も高い意欲をもって研修に励んでいる。校内研修は、各教員の授業改善や指導力の向上のために重要な基盤であることから、より専門的な外部講師を招聘するなど、引き続き、研修体制の充実を図っていくことが大切である。
- ◆ 校内研修は各教員の授業改善や指導力の向上のために重要な基盤であることから、互いの授業を見合い、研究協議する機会を確保する。なお、実施の際には、参観の視点を明らかにするなどして、教科の枠を超えた協議が可能となるような工夫をする必要がある。

(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
30 授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができているか(★) 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	68.7	-6.9	+13.1 ⑳
31 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができているか(★) 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	90.0	+3.4	+18.1 ㉑
32 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか(★) 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	81.3	-2.3	+14.6 ㉑
33 学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができているか(★) 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	94.6	-0.6	+5.7 ㉑
34 学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	77.3	-7.2	+12.6 ㉑
35 生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	97.3	+2.2	+9.9 ㉑
40 本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったか 【「週に1回程、または、それ以上」「月に数回程度」の合計】	28.7	-11.5	+27.4 ㉑

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている学校の割合は、全国平均に比べ、下回っているが、過年度に比べ、大きく増加している。
- 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている学校の割合は、過年度に比べ、大きく増加している。
- 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる学校の割合は、過年度に比べ、大きく増加している。
- 学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができている学校の割合は、過年度に比べ、増加している。
- 授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた学校の割合は、過年度に比べ、大きく増加している。
- 生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めた学校の割合は、過年度に比べ、増加している。
- 本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行った学校の割合は、過年度より大きく増加している。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
35 生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めたか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	97.3	+2.2	+9.9 ⑳

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□ 生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めた学校の割合は、極めて高い。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
29 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができているか （★）【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	80.0	-6.0	-12.9 ㉑
30 授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができているか （★）【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	68.7	-6.9	+13.1 ㉑
34 授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	77.3	-7.2	+12.6 ㉑
37 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	60.6	-12.0	-13.0 ㉑
38 知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を、計画的に取り入れたか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	48.6	-19.0	新規
39 各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを1、200字（400字詰め原稿用紙3枚）程度で生徒にまとめさせたことがあったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	29.3	-11.0	新規
40 本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったか 【「週に1回程、または、それ以上」「月に数回程度」の合計】	28.7	-11.5	+27.4 ㉑

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている学校の割合は、全国平均に比べ、下回っており、平成31年度よりも大きく減少している。
- ▼ 授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っており、平成31年度よりも大きく減少している。
- ▼ 知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程

を重視した学習を、計画的に取り入れた学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。

- ▼ 各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを1、200字（400字詰め原稿用紙3枚）程度で生徒にまとめさせたことがあった学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行った学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
38 知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を、計画的に取り入れたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	48.6	-19.0	新規
39 各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを1、200字（400字詰め原稿用紙3枚）程度で生徒にまとめさせたことがあったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	29.3	-11.0	新規
40 本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったか 【「週に1回程、または、それ以上」「月に数回程度」の合計】	28.7	-11.5	+27.4 ⑳

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を、計画的に取り入れた学校の割合は、全国平均を大きく下回っており、5割に満たない。
- ▼ 各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを1、200字（400字詰め原稿用紙3枚）程度で生徒にまとめさせたことがあった学校の割合は、全国平均を大きく下回っており、3割に満たない。
- ▼ 本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行った学校の割合は、全国平均を大きく下回っており、3割に満たない。

②今後の対策・指導

- ◆ 引き続き、学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動の充実を図っていく必要がある。
- ◆ 導入時に既習事項との関連から学習課題を立てさせたり、課題解決の見通しをもたせたりするなどの学習活動や、整理時に学習したことを自分の言葉でまとめたり、自らの取組がどうであったかを振り返ったりする学習活動は、学習意欲の向上や学習内容の定着のために大切であることから、継続的に指導する。

(4) 総合・学級活動・道徳

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
44 特別の教科 道徳において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	98.7	+0.8	+6.5 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 特別の教科 道徳において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている学校の割合は、平成31年度に比べ、増加している。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
44 特別の教科 道徳において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	98.7	+0.8	+6.5 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 特別の教科 道徳において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている学校の割合は、極めて高い。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 総合的な学習の時間や各教科の授業で、生徒の課題意識を生かした単元計画を構想したり、生徒が調べ、分析し、発表・表現するような探究的な学習活動を取り入れるなど、生徒が課題意識をもって主体的に学習活動に取り組めるよう工夫が必要である。

(5) 学習評価

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
45 生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かすことを心がけたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	98.0	+2.2	新規
48 授業の中で目標（めあて・ねらい）を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	98.0	+0.2	新規

- 生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かすことを心がけた学校の割合は、極めて高い。
- 授業の中で目標（めあて・ねらい）を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた学校の割合は、極めて高い。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 授業の中で目標を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた学習活動が極めて良好な状況である。今後は、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うと同時に、評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価することを示すことが大切である。

(6) 国語科の指導方法

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
51 言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	96.0	+1.2	新規

- 言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行った学校の割合は、極めて高い。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
50 発展的な学習の指導を行ったか(★) 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	64.6	-8.3	-4.4 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 発展的な学習の指導を行った学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

(7) 数学科の指導方法

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
56 発展的な学習の指導を行ったか(★) 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	70.0	-5.8	+1.6 ③
57 実生活における事象との関連を図った授業を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	68.7	-9.4	-0.3 ③
60 問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	82.0	-7.5	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 発展的な学習の指導を行った学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 実生活における事象との関連を図った授業を行った学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行った学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

（8）英語科の指導方法

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

（9）ICTを活用した学習状況

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
66 教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を、1クラス当たりどの程度行ったか 【「ほぼ毎日」「週1回以上」の合計】	80.0	-7.8	+6.5 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を、1クラス当たり週1回以上行った学校の割合は、平成31年度より増加している。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
63 コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができているか 【「よくできている」「できている」の合計】	80.6	-8.0	新規
64 コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、遠隔・オンライン授業を行うための準備ができているか 【「よくできている」「できている」の合計】	32.0	-7.5	新規
66 教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を、1クラス当たりどの程度行ったか 【「ほぼ毎日」「週1回以上」の合計】	80.0	-7.8	+6.5 ③
68 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会があるか 【「ある」「どちらかといえば、ある」の合計】	71.3	-7.1	新規

69 コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制があるか 【「ある」「どちらかといえば、ある」の合計】	34.0	-18.1	新規
70 教職員間の連絡に、コンピュータなどのICT機器を活用した取組を行っているか 【「よく活用している」「どちらかといえば、活用している」の合計】	71.3	-9.3	新規
74 生徒が1人で活用する場面に、コンピュータなどのICT機器を活用した取組を行っているか 【「よく活用している」「どちらかといえば、活用している」の合計】	48.6	-14.0	新規
75 生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしているか 【「毎日持ち帰って毎日利用」「毎日持ち帰って時々利用」「時々持ち帰って時々利用」の合計】	14.7	-6.1	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができていない学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、遠隔・オンライン授業を行うための準備ができていない学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を、週1回以上行った学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がある学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制がある学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 教職員間の連絡に、コンピュータなどのICT機器を活用した取組を行っている学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 生徒が1人で活用する場面に、コンピュータなどのICT機器を活用した取組を行っている学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、家庭で「毎日持ち帰って毎日」「毎日持ち帰って時々」「時々持ち帰って時々」利用している学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
64 コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、遠隔・オンライン授業を行うための準備ができていないか 【「よくできていない」「できていない」の合計】	32.0	-7.5	新規
67 学習履歴（スタディ・ログ）をはじめとした様々な教育データを、生徒の状況に応じた指導に活用しているか 【「よくできていない」「できていない」の合計】	36.0	-3.1	新規
69 コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制があるか 【「ある」「どちらかといえば、ある」の合計】	34.0	-18.1	新規
71 教職員と生徒がやりとりする場面に、コンピュータなどのICT機器を活用した取組を行っているか 【「よく活用している」「どちらかといえば、活用している」の合計】	38.0	-3.5	新規

72 生徒同士がやりとりする場面に、コンピュータなどのICT機器を活用した取組を行っているか【「よく活用している」「どちらかといえば、活用している」の合計】	25.3	-0.5	新規
73 教職員が家庭と連絡する場面に、コンピュータなどのICT機器を活用した取組を行っているか【「よく活用している」「どちらかといえば、活用している」の合計】	46.0	+2.1	新規
74 生徒が1人で活用する場面に、コンピュータなどのICT機器を活用した取組を行っているか【「よく活用している」「どちらかといえば、活用している」の合計】	48.6	-14.0	新規
75 生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしているか【「毎日持ち帰って毎日利用」「毎日持ち帰って時々利用」「時々持ち帰って時々利用」の合計】	14.7	-6.1	新規

- ▼ コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、遠隔・オンライン授業を行うための準備ができていない学校の割合は、全国平均を下回っており、4割に満たない。
- ▼ 学習履歴（スタディ・ログ）をはじめとした様々な教育データを、生徒の状況に応じた指導に活用している学校の割合は、全国平均を下回っており、4割に満たない。
- ▼ コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制がある学校の割合は、全国平均を大きく下回っており、4割に満たない。
- ▼ 教職員と生徒がやりとりする場面に、コンピュータなどのICT機器を活用した取組を行っている学校の割合は、全国平均を下回っており、4割に満たない。
- ▼ 生徒同士がやりとりする場面に、コンピュータなどのICT機器を活用した取組を行っている学校の割合は、全国平均を下回っており、3割に満たない。
- ▼ 教職員が家庭と連絡する場面に、コンピュータなどのICT機器を活用した取組を行っている学校の割合は、全国平均を上回っており、5割に満たない。
- ▼ 生徒が1人で活用する場面に、コンピュータなどのICT機器を活用した取組を行っている学校の割合は、全国平均を大きく下回っており、5割に満たない。
- ▼ 生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、家庭で「毎日持ち帰って毎日」「毎日持ち帰って時々」「時々持ち帰って時々」利用している学校の割合は、全国平均を下回っており、2割に満たない。

②今後の対策・指導

- ◆ ICTを活用した授業については、全国平均を下回っているため、各教科等においては、ICTの積極的な導入を図り、情報活用能力を高めるとともに、主体的・対話的で深い学びによる授業改善が必要である。

(10) 特別支援教育

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均及び過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
76 特別支援教育について理解し、授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行ったか【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	87.4	-5.9	-5.5 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 特別支援教育について理解し、授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行った学校の割合は、全国平均に比べ、下回っており、平成31年度より減少している。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 今後は、特別支援教育について理解し、個々の生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的・計画的に行う必要がある。

(11) 小学校教育と中学校教育の連携

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
77 近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	58.0	-7.0	-5.2 ③
78 近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	66.7	+1.6	-8.1 ③
79 平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有したか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	40.0	-8.5	-6.5 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った学校の割合は、全国平均に比べ、下回っており、平成31年度より減少している。
- ▼ 近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った学校の割合は、平成31年度より減少している。
- ▼ 平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有した学校の割合は、全国平均に比べ、下回っており、平成31年度より減少している。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
79 平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有したか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	40.0	-8.5	-6.5 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有した学校の割合は、5割に満たない。

②今後の対策・指導

- ◆ 近隣の小学校との連携は行事等の教育活動の合同実施にとどまらず、質的な充実をより一層図ることが必要である。具体的には、生徒の学力に関する課題や互いの学校の取組等を共有し、教育課程の編成に反映することが重要である。また、互いの授業を見合った後、協議の場をもつような校内研修を実施し、学習指導の方法を共に検討・共有したり、生徒の家庭学習習慣の確立に向けた取組を検討・共有したりして、生徒の学びにより一層、継続性をもたせるような工夫をすること等が考えられる。

(12) 家庭や地域との連携

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
80 職場見学や職場体験活動を行っているか 【「行っている」の割合】	90.7	+1.1	-9.3 ③
83 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	50.0	-13.3	-8.7 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 職場見学や職場体験活動を行っている学校の割合は、平成31年度より減少している。
- ▼ 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行った学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っており、平成31年度より減少している。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 地域の人材や博物館や科学館、図書館等の教育資源を生かすことは、開かれた学校づくりに寄与するだけでなく、生徒が地域に誇りをもったり、社会参画の意識を高めたりすることに大きく影響を与える。カリキュラム・マネジメントにより、効果的な教育活動の体制を整備する必要がある。

(13) 家庭学習

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 家庭学習の取り組みせ方について、生徒、保護者への家庭学習に関するガイダンスを実施するなど、指導を行う必要がある。
- ◆ 家庭学習の課題については、教科書を活用し、予習、復習をよく行っている傾向があ

るが、文章を書かせたり、発展的な内容のものを課題として与えたりする取組については、課題が見られる。授業の題材に応じて、教科ごとに家庭学習の課題を調整するなど、生徒が無理なく取り組むことができたり、自分で学習する内容等を計画しながら進めたりできるような指導に今後とも学校・学年全体で組織的に取り組む必要がある。

- ◆ 授業のまとめの段階で復習や宿題だけでなく、授業の題材に応じて予習や発展的課題を提示するなどの具体的な指導を行う。
- ◆ 単元のまとめとして、単元で学習したことを文章や図表を使って整理させる課題を与えたり、次の単元や授業につながる課題を提示し辞書や資料を使って調べさせるような課題を与えたりする指導を、適切な場面を捉えて実施する。
- ◆ 長期休業中においては、授業で扱った内容や身近題材をテーマにして自由研究に取り組みさせることが必要である。その際、自由研究の手引きなどを活用し、長期休業前に指導するなど、改善が必要である。

(14) 全国学力・学習状況調査の結果等の活用

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
90- 1 全国学力・学習状況調査の結果を、生徒の傾向や課題を把握するために活用しているか 【「はい」の割合】	96.0	-1.0	新規

- 全国学力・学習状況調査の結果を、教育活動の改善のために、生徒の傾向や課題を把握するために活用している学校の割合は、極めて高い。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
88- 1 全国学力・学習状況調査の結果を、学習指導要領の理解を深めるため、調査対象学年・教科の教員で出題意図を確認しているか 【「はい」の割合】	74.0	-14.9	新規
88- 2 全国学力・学習状況調査の結果を、学習指導要領の理解を深めるため、調査対象学年・教科の教員以外の教員も出題意図を確認しているか 【「はい」の割合】	39.3	-22.2	新規
88- 3 全国学力・学習状況調査の結果を、学習指導要領の理解を深めるため、校内研修等で、個別の問題を題材として取り上げているか 【「はい」の割合】	24.0	-22.8	新規
88- 4 全国学力・学習状況調査の結果を、問題全体を活用し、校内研修等を通じて、授業の改善を行っているか 【「はい」の割合】	50.0	-9.9	新規
88- 5 全国学力・学習状況調査の結果を、学力・学習状況の把握のため、授業の中で取り上げているか 【「はい」の割合】	68.7	-8.7	新規
88- 6 全国学力・学習状況調査の結果を、学力・学習状況の把握のため、生徒への家庭学習等の課題の参考としているか 【「はい」の割合】	42.7	-22.0	新規
88- 7 全国学力・学習状況調査の結果を、学校が独自に実施するテストや、学力・学習状況調査等で作問する際に参考としているか 【「はい」の割合】	67.3	-10.2	新規

88- 8 全国学力・学習状況調査の結果を、教員が独自に作成する教材の内容を検討する際に参考としているか 【「はい」の割合】	72.7	-8.8	新規
88- 9 全国学力・学習状況調査の結果を、保護者や地域の人の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用しているか 【「はい」の割合】	18.0	-25.6	新規
89 平成31年度（令和元年度）の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したか 【「よく行った」「行った」の合計】	78.7	-9.0	新規
90- 2 全国学力・学習状況調査の結果を、学校が実施する学力・学習状況調査等、他の調査結果を組み合わせた分析を行っているか 【「はい」の割合】	65.3	-7.9	新規
90- 3 全国学力・学習状況調査の結果を、学校が独自に作成する教材の内容を検討する際に活用しているか 【「はい」の割合】	46.0	-19.1	新規
90- 4 全国学力・学習状況調査の結果を、学校が独自に実施するテストや、学力・学習状況調査等で作問する際に参考としているか 【「はい」の割合】	60.7	-16.3	新規
90- 5 全国学力・学習状況調査の結果を、学力向上等の施策の成果・課題、費用対効果等の評価に活用しているか 【「はい」の割合】	42.0	-18.2	新規
90- 6 全国学力・学習状況調査の結果を、保護者や地域の人の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用しているか 【「はい」の割合】	26.7	-25.0	新規
90- 7 全国学力・学習状況調査の結果を、課題が見られた点を中心として校内研修を実施し、授業改善に活用しているか 【「はい」の割合】	62.0	-14.2	新規
91 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っているか 【「よく行っている」「どちらかといえば、行っている」の合計】	76.6	-9.2	新規

- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、学習指導要領の理解を深めるため、調査対象学年・教科の教員で出題意図を確認している学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、学習指導要領の理解を深めるため、調査対象学年・教科の教員以外の教員も出題意図を確認している学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、学習指導要領の理解を深めるため、校内研修等で、個別の問題を題材として取り上げている学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、問題全体を活用し、校内研修等を通じて、授業の改善を行っている学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、学力・学習状況の把握のため、授業の中で取り上げている学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。

- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、学力・学習状況の把握のため、生徒への家庭学習等の課題の参考としている学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、学校が独自に実施するテストや、学力・学習状況調査等で作問する際に参考としている学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、教員が独自に作成する教材の内容を検討する際に参考としている学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、保護者や地域の人々の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用している学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 平成31年度（令和元年度）の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、学校が実施する学力・学習状況調査等、他の調査結果を組み合わせた分析を行っている学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、学校が独自に作成する教材の内容を検討する際に活用している学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、学校が独自に実施するテストや、学力・学習状況調査等で作問する際に参考としている学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、学力向上等の施策の成果・課題、費用対効果等の評価に活用している学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、保護者や地域の人々の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用している学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、課題が見られた点を中心として校内研修を実施し、授業改善に活用している学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
88- 2 全国学力・学習状況調査の結果を、学習指導要領の理解を深めるため、調査対象学年・教科の教員以外の教員も出題意図を確認しているか 【「はい」の割合】	39.3	-22.2	新規
88- 3 全国学力・学習状況調査の結果を、学習指導要領の理解を深めるため、校内研修等で、個別の問題を題材として取り上げているか 【「はい」の割合】	24.0	-22.8	新規
88- 6 全国学力・学習状況調査の結果を、学力・学習状況の把握のため、生徒への家庭学習等の課題の参考としているか 【「はい」の割合】	42.7	-22.0	新規
88- 9 全国学力・学習状況調査の結果を、保護者や地域の人々の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用しているか 【「はい」の割合】	18.0	-25.6	新規
90- 3 全国学力・学習状況調査の結果を、学校が独自に作成する教材の内容を検討する際に活用しているか 【「はい」の割合】	46.0	-19.1	新規
90- 5 全国学力・学習状況調査の結果を、学力向上等の施策の成果・課題、費用対効果等の評価に活用しているか 【「はい」の割合】	42.0	-18.2	新規
90- 6 全国学力・学習状況調査の結果を、保護者や地域の人々の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用しているか 【「はい」の割合】	26.7	-25.0	新規

- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、学習指導要領の理解を深めるため、調査対象学年・教科の教員以外の教員も出題意図を確認している学校の割合は、4割に満たない。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、学習指導要領の理解を深めるため、校内研修等で、個別の問題を題材として取り上げている学校の割合は、3割に満たない。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、学力・学習状況の把握のため、生徒への家庭学習等の課題の参考としている学校の割合は、5割に満たない。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、保護者や地域の人々の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用している学校の割合は、2割に満たない。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、学校が独自に作成する教材の内容を検討する際に活用している学校の割合は、5割に満たない。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、学力向上等の施策の成果・課題、費用対効果等の評価に活用している学校の割合は、5割に満たない。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、保護者や地域の人々の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用している学校の割合は、3割に満たない。

②今後の対策・指導

- ◆ 各校においては、多面的な分析を行い、学校としての成果と課題を把握・検証し、保護者や地域住民の理解と協力の下に適切に連携を図りながら、授業改善等に取り組むことが必要である。
- ◆ 調査結果を踏まえ、各生徒の全般的な学習状況の改善等に努めるとともに、学習指導の改善等に向けて取り組むことが大切である。

(15) 新型コロナウイルス感染症の影響

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
C2- 4 臨時休業期間中、家庭学習として、生徒の自由研究や自主学習ノート等の学習を実施したか 【基本的に全校で実施】の割合	52.7	+5.1	新規
C2- 6 臨時休業期間中、家庭学習として、同時双方向型オンライン指導を通じた学習を実施したか 【基本的に全校で実施】の割合	12.0	+8.3	新規
C5- 3 臨時休業期間中、家庭学習におけるICT活用について、学校の通信環境（無線LAN等）が整っていなかったか 【当てはまらない」「あまり当てはまらない」の合計	73.4	+6.9	新規
C5-11 臨時休業期間中、家庭学習におけるICT活用について、教職員からの協力を得るのが難しかったか 【当てはまらない」「あまり当てはまらない」の合計	31.4	+6.0	新規
C5-12 臨時休業期間中、家庭学習におけるICT活用について、保護者からの支援を得るのが難しかったか 【当てはまらない」「あまり当てはまらない」の合計	39.3	+8.5	新規
C5-13 臨時休業期間中、家庭学習におけるICT活用について、教育委員会が積極的ではなかったか 【当てはまらない」「あまり当てはまらない」の合計	35.3	+12.0	新規

- 臨時休業期間中、家庭学習として、生徒の自由研究や自主学習ノート等の学習を基本的に全校で実施した学校の割合は、全国平均に比べ、上回っている。

- 臨時休業期間中、家庭学習として、同時双方向型オンライン指導を通じた学習を基本的に全校で実施した学校の割合は、全国平均に比べ、上回っている。
- 臨時休業期間中、家庭学習におけるICT活用について、学校の通信環境（無線LAN等）が整っていなかったと回答した学校の割合は、全国平均に比べ、上回っている。
- 臨時休業期間中、家庭学習におけるICT活用について、教職員からの協力を得るのが難しかったと回答した学校の割合は、全国平均に比べ、上回っている。
- 臨時休業期間中、家庭学習におけるICT活用について、保護者からの支援を得るのが難しかったと回答した学校の割合は、全国平均に比べ、上回っている。
- 臨時休業期間中、家庭学習におけるICT活用について、教育委員会が積極的ではなかったと回答した学校の割合は、全国平均に比べ、大きく上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
C2- 1 臨時休業期間中、家庭学習として、教科書に基づく学習内容の指示を実施したか 【基本的に全校で実施】の割合	61.3	-22.1	新規
C2- 2 臨時休業期間中、家庭学習として、学校が作成したプリント等を配布（電子メールや学校のHP等を活用して配信する場合を含む）を実施したか 【基本的に全校で実施】の割合	66.7	-21.1	新規
C2- 5 臨時休業期間中、家庭学習として、学校が作成した学習動画等を活用した学習を実施した 【基本的に全校で実施】の割合	8.0	-6.5	新規
C2- 7 臨時休業期間中、家庭学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した「問題集」・「復習ノート」等の教材（教育委員会のHPで配信されている場合を含む）を活用した学習を実施したか 【基本的に全校で実施】の割合	2.7	-24.2	新規
C2- 8 臨時休業期間中、家庭学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した学習動画等を活用した学習を実施したか 【基本的に全校で実施】の割合	1.3	-22.0	新規
C2- 9 臨時休業期間中、家庭学習として、公的機関や民間の音声・動画コンテンツ等を活用した学習（C2-5及びC2-8を除く）を実施したか 【基本的に全校で実施】の割合	1.3	-11.5	新規
C2-10 臨時休業期間中、家庭学習として、テレビ放送を活用した学習を実施したか 【基本的に全校で実施】の割合	0.7	-6.1	新規
C10 新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、教員の業務量に変化があったか 【増えた」「どちらかといえば、増えた」の合計	70.7	-9.9	新規

- ▼ 臨時休業期間中、家庭学習として、教科書に基づく学習内容の指示を基本的に全校で実施した学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 臨時休業期間中、家庭学習として、学校が作成したプリント等を配布（電子メールや学校のHP等を活用して配信する場合を含む）を基本的に全校で実施した学校の割合は、

全国平均に比べ、大きく下回っている。

- ▼ 臨時休業期間中、家庭学習として、学校が作成した学習動画等を活用した学習を基本的に全校で実施した学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 臨時休業期間中、家庭学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した「問題集」・「復習ノート」等の教材（教育委員会のHPで配信されている場合を含む）を活用した学習を基本的に全校で実施した学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 臨時休業期間中、家庭学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した学習動画等を活用した学習を基本的に全校で実施した学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 臨時休業期間中、家庭学習として、公的機関や民間の音声・動画コンテンツ等を活用した学習（C2-5及びC2-8を除く）を基本的に全校で実施した学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 臨時休業期間中、家庭学習として、臨時休業期間中、家庭学習として、テレビ放送を活用した学習を基本的に全校で実施した学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、教員の業務量に変化があったと回答した学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
C2-5 臨時休業期間中、家庭学習として、学校が作成した学習動画等を活用した学習を実施したか 【基本的に全校で実施】の割合	8.0	-6.5	新規
C2-6 臨時休業期間中、家庭学習として、同時双方向型オンライン指導を通じた学習を実施したか 【基本的に全校で実施】の割合	12.0	+8.3	新規
C2-7 臨時休業期間中、家庭学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した「問題集」・「復習ノート」等の教材（教育委員会のHPで配信されている場合を含む）を活用した学習を実施したか 【基本的に全校で実施】の割合	2.7	-24.2	新規
C2-8 臨時休業期間中、家庭学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した学習動画等を活用した学習を実施したか 【基本的に全校で実施】の割合	1.3	-22.0	新規
C2-9 臨時休業期間中、家庭学習として、公的機関や民間の音声・動画コンテンツ等を活用した学習（C2-5及びC2-8を除く）を実施したか 【基本的に全校で実施】の割合	1.3	-11.5	新規
C2-10 臨時休業期間中、家庭学習として、テレビ放送を活用した学習を実施したか 【基本的に全校で実施】の割合	0.7	-6.1	新規
C2-11 臨時休業期間中、家庭学習として、民間のデジタル教材を活用したか 【基本的に全校で実施】の割合	5.3	-3.2	新規
C5-11 臨時休業期間中、家庭学習におけるICT活用について、教職員からの協力を得るのが難しかったか 【当てはまらない」「あまり当てはまらない」の合計	31.4	+6.0	新規
C5-12 臨時休業期間中、家庭学習におけるICT活用について、保護者からの支援を得るのが難しかったか 【当てはまらない」「あまり当てはまらない」の合計	39.3	+8.5	新規
C5-13 臨時休業期間中、家庭学習におけるICT活用について、教育委員会が積極的ではなかったか 【当てはまらない」「あまり当てはまらない」の合計	35.3	+12.0	新規

C5-14 臨時休業期間中、家庭学習におけるICT活用について、必要性を校長として十分には感じていなかったか 【当てはまらない」「あまり当てはまらない」の合計	12.0	+4.2	新規
C7 新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、生徒同士の関係はよくなったか 【よくなった」「どちらかといえば、よくなった」の合計	6.7	-4.3	新規
C8 新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、生徒と教員の関係はよくなったか 【よくなった」「どちらかといえば、よくなった」の合計	9.3	-4.5	新規
C9 新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、教員と保護者の関係はよくなったか 【よくなった」「どちらかといえば、よくなった」の合計	6.0	-4.2	新規

- ▼ 臨時休業期間中、家庭学習として、学校が作成した学習動画等を活用した学習を基本的に全校で実施した学校の割合は、1割に満たない。
- ▼ 臨時休業期間中、家庭学習として、同時双方向型オンライン指導を通じた学習を基本的に全校で実施した学校の割合は、2割に満たない。
- ▼ 臨時休業期間中、家庭学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した「問題集」・「復習ノート」等の教材（教育委員会のHPで配信されている場合を含む）を活用した学習を基本的に全校で実施した学校の割合は、1割に満たない。
- ▼ 臨時休業期間中、家庭学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した学習動画等を活用した学習を基本的に全校で実施した学校の割合は、1割に満たない。
- ▼ 臨時休業期間中、家庭学習として、公的機関や民間の音声・動画コンテンツ等を活用した学習（C2-5及びC2-8を除く）を基本的に全校で実施した学校の割合は、1割に満たない。
- ▼ 臨時休業期間中、家庭学習として、テレビ放送を活用した学習を基本的に全校で実施した学校の割合は、1割に満たない。
- ▼ 臨時休業期間中、家庭学習として、民間のデジタル教材を活用した学習を基本的に全校で実施した学校の割合は、1割に満たない。
- ▼ 臨時休業期間中、家庭学習におけるICT活用について、教職員からの協力を得るのが難しかったと回答した学校の割合は、4割に満たない。
- ▼ 臨時休業期間中、家庭学習におけるICT活用について、保護者からの支援を得るのが難しかったと回答した学校の割合は、4割に満たない。
- ▼ 臨時休業期間中、家庭学習におけるICT活用について、教育委員会が積極的ではなかったと回答した学校の割合は、4割に満たない。
- ▼ 臨時休業期間中、家庭学習におけるICT活用について、必要性を校長として十分には感じていなかったと回答した学校の割合は、2割に満たない。
- ▼ 新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、生徒同士の関係はよくなったと回答した学校の割合は、1割に満たない。
- ▼ 新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、生徒と教員の関係はよくなったと回答した学校の割合は、1割に満たない。
- ▼ 新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、教員と保護者の関係はよくなったと回答した学校の割合は、1割に満たない。

②今後の対策・指導

- ◆ 新型コロナウイルス感染症への感染防止に向けた臨時休業等への対応として、児童生徒の「学びの保障」を確実に進めることが必要である。国からの各通知文等で示されているとおり、新型コロナウイルス感染症対策と学びの保障の両立を図り、新しい生活様式を踏まえた学校教育活動を実施していくことが求められる。
- ◆ 臨時休業の長期化などにより、学校の授業における通常の学習活動で指導を終えることが困難な場合の特例的な対応として、授業で行う活動を学校でしか実施できない活動に重点化するとともに、家庭における学習の支援については、家庭等と連携してICTを最大限に活用するなどし、学習の状況・成果を丁寧に把握することが大切であり、その際には、県教育委員会が作成した教科書を使用する予習を基にした家庭学習等のモデル例を活用するなど、児童生徒への支援を適切に行うことも必要である。